



# GS 連続シンポジウム 2009 まちづくりへのブレークスルー このまちに生きる

## 第1回「30年でなしたこと、100年でなしてゆくこと — 山形 金山町」

**2009年1月22日(木) 16:00-19:00 / 東京大学 工学部1号館15号教室 入場料：一般/1000円 学生/無料**

主催 /GSデザイン会議 後援 /土木学会 景観・デザイン委員会

<http://www.groundscape.jp/>

サポート / (株)アトリエ74建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・イー、(有)eau、伊藤鉄工(株)、(株)INAX、(株)イワタ、(株)内田洋行、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター、(株)コトブキ、(株)GK設計、(株)住軽日軽エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設計シビル、日本工営(株)、プロトフォルム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、三菱地所(株)、ヨシモトホール(株)、(株)ワークヴィジョンズ

撮影：小野寺康



# GS 連続シンポジウム 2009 まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる

GSデザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を越えた専門家間のデザイン体制(コラボレーション)の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。特に、複数の事業が絡み合うまちづくりにおいては、トータルな空間づくりが求められるため、コラボレーションという体制で多角的な視点から臨むことが重要となります。また、まちづくりは必ずと言ってよいほど様々な制約の中で行われ、これまでに実現した、成功とされるまちづくりの事例は、いわばその制約と悪戦苦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多く存在しているはずです。GSデザイン会議ではこうした知恵の共有化に向けたシンポジウムおよび出版を企画し、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民へ情報を発信していきます。

本シンポジウム「まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる」では、まちづくりにあたっての予算措置、発注方法を含む設計体制、制度の運用や活用などに焦点をあてた実質的な議論を行っていきます。毎回全国各地の実際の事例を取り上げ、関わった方々から直接その思いや経緯などをお話し頂きます。第1回は山形・金山町の取り組みから、まちづくりとまちなみ整備のあり方を問います。

## プログラム

16:00-16:15 開会挨拶 篠原 修(GS代表/政策研究大学院大学)  
16:15-16:45 基調講演 鈴木 洋(金山町長)  
16:45-17:15 基調講演 片山 和俊(東京藝術大学)  
17:30-18:50 パネルディスカッション+会場質問

進行役:中井 祐(GS/東京大学大学院)  
パネリスト:林 寛治(林寛治設計事務所)

片山 和俊(前出)  
住吉 洋二(武蔵工業大学)  
岸 三郎兵衛(金山町森林組合)  
江川 直樹(関西大学)

18:50-19:00 閉会挨拶 内藤 廣(GS代表/東京大学大学院)  
19:10-21:00 懇親会

## 登壇者略歴

**鈴木 洋** 山形県金山町長  
1953年生まれ。山形県立新庄北高等学校普通科卒業。山形県金山町役場入庁後、出納室長、総務課政策主幹を経て、2008年4月27日から現職(現在1期目)。全国に先駆ける100年先の街並みづくりを見据えて昭和61年に制定した「金山町街並み景観条例」など、金山町の重要政策を活かし、金山町の「まちづくり」に新たな創造力で取り組む。

**林 寛治** 林寛治設計事務所 代表  
1936年生まれ。東京藝術大学建築科卒業。1961年、在ローマ日本文化会館(吉田五十八設計)現場見習いとして渡伊。Co-architect Prof. G Postano Studioに所属。その後、Studio G. Rebecchini + Julio Lafuente、吉村順三設計事務所を経て、1974年 林寛治設計事務所 / Studio KA 開設主宰。第一回東北建築賞佳作(町立金山小学校)、日本建築学会賞(共同受賞)など。

**片山 和俊** 東京藝術大学 教授  
1941年生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。「風土間の家」「草原の家」「町庭の家」などの住宅や埼玉県ふれあいの森森林科学館・宿泊棟(日本建築家協会新人賞)、山形県金山町まちづくり100年計画(日本建築学会業績賞、土木学会デザイン最優秀賞)に取り組む。主な著書『空間作法のフィールドノート』(共著)(彰国社) 他

**住吉 洋二** 武蔵工業大学 教授  
1946年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了。ドイツ・ダルムシュタット工科大学にて都市環境整備手法に関する調査・研究を行う。昭和57年7月 株式会社都市企画工房設立。現在、武蔵工業大学教授、株式会社都市企画工房代表取締役、山形県金山町街並み景観審議会委員、目黒区都市計画審議会専門委員など歴任。

**岸 三郎兵衛** 金山町森林組合代表理事組合長  
1948年生まれ。慶応義塾大学商学部卒業。東京農工大学で2年間林学を学び、1973年金山町に帰り、三興興業(株)に入社し、家業である林業経営にあたり、現在同社代表取締役社長。1998年からは金山町森林組合代表理事組合長に就任し、現在に至る。他に地域文化の振興と良好な環境の保全を事業目的としたカムロファーム倶楽部を1998年より主宰。

**江川 直樹** 関西大学 教授  
1951年生まれ。早稲田大学大学院修士課程修了。1977年 現代計画研究所、1982年 現代計画研究所大阪事務所開設。神戸芸術工科大学、京都造形芸術大学など各非常勤講師を経て、2004年より関西大学工学部建築学科教授。現在、関西大学環境都市工学部建築学科教授、関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター長。主な著書『住まいと街の仕掛人』(2003年 学芸出版社)

**中井 祐** 東京大学大学院 准教授  
1968年生まれ。東京大学大学院土木工学専攻修了。(株)アブル総合計画事務所、東京工業大学社会理工学研究科助手、東京大学大学院工学系研究科助手等を経て、2004年より現職。工学博士。設計作品、設計指導に、岸公園(島根県)、宿毛河戸堰(高知県)、北上川分流施設(宮城県)、松田川河川公園(高知県)、第二西海橋(長崎県)、片山津水生植物公園(石川県)など多数。

# 第1回「30年でなしたこと、100年でなしてゆくこと - 山形 金山町」

山形県北東部、秋田との県境に位置する金山町。山々に囲まれた人口7千人弱の農山村で、町の面積の約8割を森林が占める緑豊かな風景が町並みの背後に広がる。高温多湿、寒暖の差が大きな厳しい気候は「金山杉」の銘柄で知られる杉の産地で、古くから林業が盛んに行われてきた。町並みには落ち着いた雰囲気、表に滲み出した日常の生活が、来訪者も心地良く迎えてくれる。しかしここに至るまでには幾つもの試みや制度が幾層にも積み重ねられてきた経緯がある。

過疎や地域の活性化など諸問題を抱える地方都市。金山もその例外ではなかったが、昭和38年の「金山美化運動」にはじまり、昭和46年に岸宏一前々町長が就任したことを契機に本格的に美しいまちづくりが政策の中心に据えられていった。金山型住宅で有名な「金山町住宅建築コンクール」が行われ、町は次第に地場材の金山杉を活かした、風土と地域振興が融合した風景へと変わり始める。そして、より具体的な施策として昭和59年の「新金山基本構想」の中で、「街並み(景観)づくり100年運動」が提唱され、町を目指す将来が一貫した目標として掲げられたのである。

松田貢前町長、鈴木洋現町長と受け継がれてきた施策に、景観審議会専門委員として林寛治氏、片山和俊氏、住吉洋二氏を中心としたチームがその実作業に携わってきた。マスタープランやガイドライン、計画・設計イメージなど、まちを俯瞰したスケールからディテールに至るまで幅広く監修にあたる。平成8年度には「金山町くらしの道づくり計画」を策定し、中心市街地の面的なまちづくりに着手しはじめた。整備は、町の表であるメインストリートからではなく、裏側の道からはじめられた。そこには、豪雪地域ならではの流雪溝が歴史的に張り巡らされており、その水路を活かした生活空間の整備を着実に進め、今では魅力ある景観の一つとなっている。

「まあ、100年あるんだから」と話していたのは住吉洋二氏。100年というスケールの時間単位を設定したことが、むしろ町並みにおおらかさを与え、なにより息の長いまちづくりを実現している。

元気良くあいさつをし、話しかけてくる子供たちが走り回り、「通り抜けできます」と来訪者を気さくに迎えてくれるまちがある。着実に続けられてきたまちづくりの成果は、住む人々の姿に表れている。

2007年には土木学会デザイン賞の最優秀賞を受賞した金山の、30年でなしてきたこと、そして100年でなしてゆくこれからの注目する。



写真1: 七日町通りの家屋



写真2: まちに流れる水路



写真3: 大堰に流れる清流



## 参加申込方法/

WEBサイト<http://www.groundscape.jp/sympo/090122/>の応募フォームからお申し込みいただくか、会員(個人・サポート・ユース)/非会員・氏名(ふりがな)・所属(会社名または学校名)・連絡先(メールアドレスまたは電話番号)・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申し込み人数をご記入の上、ファックスにてGSデザイン会議事務局まで送ってください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

## 問い合わせ先/

GSデザイン会議事務局  
電話:03-5805-5578 / FAX:03-5805-5579

Web: <http://www.groundscape.jp> E-mail: [info@groundscape.jp](mailto:info@groundscape.jp)

## 会場案内図

